

# 山口芸術短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 山口芸術短期大学の概要

設置者	学校法人 宇部学園
理事長	二木 秀夫
学 長	加屋野 洋
A L O	河北 邦子
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	山口県吉敷郡小郡町大字上郷

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育学科		150
デザインアート学科		50
音楽学科		50
	合計	250

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員	
音楽専攻	15	
芸術文化専攻	10	
幼児教育専攻	10	
	合計	35

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

山口芸術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育の内容、方法が異なる3つの学科をもつ短期大学として、学科ごとの教育目標を明確にするとともに、これを建学の理念に結びつける努力がなされてきた。平成18年度の学生便覧には、その経緯が、学生のみならず、保護者、教職員にも向けて、詳細に説明されている。

教育課程の全般にわたり、充分体系化されている。とくに専門課程は充実している。常時、学科単位でカリキュラムの点検、再評価が行われており、授業改善、教育充実への強い意欲を感じさせる。とくに保育学科におけるカリキュラムが充実しており、さらにそれを補足する個人指導体制も整備されている。

教員組織、教育環境とも、充分短期大学設置基準を充たしている。教員の任用、昇任などの人事については、内規に則り、人事教授会（教授のみで構成）で公平適切な資格審査が行われている。教員と学生による学内清掃活動が恒例化されているなど、環境美化の取組みが行われ、学内環境が大変清潔に保たれており、快適な教育環境が実現されている。

教育目標達成のための努力は、3つの学科それぞれの方法で行われているが、数値的には、単位取得率の高さ、退学、休学者の少なさなどに、その成果がうかがえる。卒業後の評価については、一般に県下での就職者が多く、「堅実で定着率が高い」との評価を受けている。

近年、入学時の学生の学力格差が顕著になりつつある。そのためにも、入学前のオリエンテーションや、チューター制度による学生個々の指導に力を入れている。進度の遅い学生には時間外の指導を行い、進度の早い学生には新たな課題を与えたり、コンクールへの出品を奨めるなど、さらなる進歩の後押しを考えている。短期大学の発展にとっては、卒業生の進路確保が生命線であると思われるが、当該短期大学では、地元企業などを中心に、

かなり良好な就職率を維持しており、地域社会での評価の定着をうかがわせる。

教員各自の個人研究、創作発表などの状況は、短期大学としては妥当な水準にある。加えて各学科で毎年共同研究が多数採択され、授業改善の方法から新たな教育方法の開拓まで、さまざまに興味深いテーマに取り組んできている。

「地域の文化・芸術活動や人的交流の拠点として評価される短期大学」、それが学是のひとつとなっている。生涯学習センターを核とした、社会人・職業人のリカレント教育、教員と学生による各方面での社会連携活動などに、そのことがよくうかがえる。

事業計画および予算については、適切なプロセスで機関決定されており、関係部署への伝達、執行についても、その運用に問題点はない。学校法人の経営・財政状態については、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録などで適正に表示されている。監査機能も有効に働いている。資金収支および消費収支は学校法人、短期大学ともに安定しており、短期大学における消費支出比率はこの3ヶ年で漸減している。なお、短期大学の帰属収入における教育研究経費の比率は、この3ヶ年、妥当な水準を維持しており、教育研究用の施設、図書などに対する配分も適切である。

短期大学の運営がますます困難になる状況に鑑み、前回の自己点検活動以後、とくにこの3年間は、全学をあげて改善・改革の方向を探ってきた。その結果が、学科名称の変更、カリキュラムの改善、「ステージフィールド制」(基礎・展開・資格という3段階のステージで、学生のニーズに応じた自由な科目選択を可能にするとともに、それを補助するための個人指導を充実させたシステム)の導入などであり、学生にとってより魅力ある教育システムの実現を目指して、改革が重ねられてきている。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

地元が誇る先人吉田松陰の言葉「至誠」を学是としていることは、圧倒的に地元出身者の多い学生、保護者、および周辺の地域社会にとって、親しみやすく、理解も得られやすく、学園の発展に資するところが大きい。

評価領域 教育の内容

3学科とも、導入科目から展開科目、さらには資格取得関連科目にいたるまで、十分な数の専門科目を提供し、免許・資格の取得が重要な教育目標の一つであることを、明確に打ち出している。

評価領域 教育の実施体制

校地、校舎は充実しており、芸術系短期大学に相応しい教育環境を整備し、加えて丁

寧な保守点検が効果をあげている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

成績評価のばらつきを減らし、教育目標の実現を促進するため、各学科で、学期ごとに、非常勤講師をも交えた懇談会などを催している。

芸術系短期大学の特色をいかし、学科ごとに各種の資格に対応したカリキュラムを整備している。

評価領域 学生支援

当該短期大学におけるチューター制は、単なる担任制にとどまらず、毎週金曜日に全学でチューターの時間（HR的なもの）を設けるなど、学生指導の基本システムとして定着し、学生の満足度を高める点でも大きな効果を発揮している。

恒例化した学生アンケートのほか、「声のポスト」（投書箱）を設置するなど、学生の希望や不満を直接くみ上げる努力もしている。

評価領域 研究

学科の教員が毎年、共同のテーマで研究や議論を進めるというのは、教員間の意思疎通という観点からも、大変優れた企画である。成果は授業改善などに充分いかされている。

評価領域 社会的活動

地域に根ざし、地域とともに発展する短期大学という運営理念が、実際の活動成果を通じて十分に読み取れる。

評価領域 管理運営

理事会直轄の運営委員会を設け、教授会、理事会で審議される議案の事前調整機能をもたせている。これによってスピーディーで円滑な学園業務の遂行が可能になっている。

## （２）向上・充実のための課題

評価領域 学生支援

多様な入試制度が用意されているが、求める学生像を明らかにするためにも、入試要項などにアドミッション・ポリシーの掲載が望まれる。

評価領域 研究

教員の研究活動、創作活動などを、ウェブサイトで広報する計画については、可能な限り実現されたい。

評価領域 社会的活動

併設高等学校があることから、高大連携をより一層活発な展開を期待したい。  
地域活動の成果を国際交流の分野にも拡充する可能性を探られることを望みたい。

評価領域 財務

中・長期計画については、来年度の大学開設を始め、さまざまに検討されているようだが、明確に文書化されたものはない。今後の短期大学運営について全学の意志を統一するためにも、文書化し、学内に周知することが望ましい。  
財務情報の公開を、広範な関係者に向けて、可能な限り積極的に行うために、その形式、方法の検討を進められたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「吉田松陰の<至誠>の心を心とする教育」という理念が、学園の教育活動全般の基盤として明確に示されている。さらに「芸術を愛し(中略)永遠の真・善・美を追求する感性豊かな人材を育成する」といった教育の理念も、学科ごとの教育目的と併せ確立している。

短期大学としての教育の理念、学科ごとの教育目的については、建学以来、機会あるごとに再点検を続けてきているが、とくに平成8年度には、自己点検・評価作業の柱として、建学の精神、教育の理念、各学科の教育目標などについて全学的な再検討が行われ、その結果が報告書に詳しく紹介されている。

建学の理念については、大学案内やウェブサイト、さらには入学式での理事長、学長の挨拶などで説明され、新入学生の理解を求めている。また、平成18年度の学生便覧からは、とくにページを設け、建学の理念ならびに教育の理念について詳細に記述するようになった。学科ごとの教育目標は、入学時のオリエンテーション、宿泊研修、チューターによる指導などを通じて、学生の理解を促している。

### 評価領域 教育の内容

教育内容、方法の異なる3つの学科がそれぞれに工夫し、充分体系的なカリキュラムが編成されている。とくに専門課程は質、量ともに標準を超える科目が準備されているが、共通科目(一般教育)については、やや科目数が少なく、当該短期大学における教養教育の特徴、その目指すところが見えにくい印象もある。

いずれの学科においても、各種の免許・資格などの取得が大きな教育目的になっており、カリキュラムにもそのための配慮が充分なされている。「学生のニーズ」というとき、社会人や資格取得のための再入学生など、多様な背景をもった学生の受け入れ体制をも意味すると思うが、現段階では、一般学生の科目選択に多様性をもたせることを主眼とし、必修科目を減らして選択科目を増やすとともに、多様な＜目的別履修モデル＞を用意するなど、学生の個別履修指導を徹底することになっている（ステージフィールド制）。

授業内容、評価方法などについては、シラバスによって明示されているほか、入学時のオリエンテーション、学科中心で行われる学年ごとのガイダンスなどで、学生にも充分明らかにされている。

授業内容、教育方法の改善については、学科を中心に常時点検、検討が行われているほか、5年ごとの「自己点検評価報告書」作成時には、全学的に徹底した点検を行い、改善・改革に結びつけてきた。近年は「学生アンケート」が授業改善への有効なデータを提供している。学生の指摘について各教員の受けとめ方を聴く「教員アンケート」も行っているが、教員側にも反省、改善への意欲が充分うかがえる。回を追うにつれて「学生アンケート」の結果が好転しているのも、その成果であろう。

#### 評価領域 教育の実施体制

教員組織は整備され、教員数も短期大学設置基準を充足している。限られた人数の教員が、各種の委員会活動だけでなく、学生部を中心にした事務組織にも深く関与している（部課長に就いている）など、短期大学運営への強い熱意を感じる。

音楽学科など、実習系の短期大学に不可欠な実習室、個人レッスン室を完備し、附属の機器類も、短期大学としては十分なレベルに整備されている。清潔で快適な教育環境作りへの努力がうかがえる。なお、体育館、運動場なども整備され、安全面も充分配慮されているが、校舎がすべて独立しており、エレベーターもないなど、移動のための障害のある学生の受け入れは、今後の課題である。

図書館は充分整備されている。蔵書数、閲覧室の座席数などがやや少ないようにも思われるが、現在のところ、学生、教職員の必要には充分応えている。

教員組織は整備されており、教員の任用、昇任などの人事については、内規に則り公平適切な資格審査が行われている。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成に不可欠な教員間の連携、たとえば成績評価の方法や基準についての打ち合わせなどが、非常勤教員も含めて、かなりの回数行われている。授業改善につ

いては、学科での討議のほか、教員アンケートなどでも各人の考えを聴いている。多くの教員が学生の満足度を重視し、授業改善への意欲を示している。全学的制度としてチューター制度を充実させ、学習面でも生活面でも、学生一人ひとりの事情を重視した指導を心がけている。こうした努力の成果として、学生の単位取得率は高く、退学者、休学者の数も大変少ない。学生アンケートの結果でも、回を追うにつれて、満足度を示す数値が向上しているのは注目に値する。

近年、学生の就職先開拓に関連して卒業生の追跡調査、アフターケアの重要性を痛感し、その試み（就職先での聴き取り、卒業生アンケートの試行など）を始めている。保育学科では専門就職率が高く、その多くが県下の幼稚園などであるため、就職先での評価も把握が容易であり、その評価は十分に高いものである。

#### 評価領域 学生支援

入学内定者に対し、入学前のオリエンテーションを丁寧に行っている。短期大学生生活への不安を取り除き、心身の準備を促すのに役立つとともに、内定者の入学率向上に役立っている。入学後は、全学ならびに学科でのオリエンテーションのほか、チューターによる指導を通じて、大学生活への順応を支援している。

学科ごとにチューター制度を充実させ、学習面、生活面での個人指導に力を入れている。近年、学生間の学力格差が目立つようになり、その意味でも個人別指導の必要性が増大している。

学生部、学生生活就職支援委員会などが、事務部と協力して必要な支援体制を整えている。支援策の一つとして、校地内に女子学生寮（80室）を設置しているのは、特記すべきである。保健室を整備し、専門員による相談日を設けている。また、学生ごとの個人票を作成し、各種の指導に不可欠の資料としているが、その管理は「学生の個人情報保護に関する内規」によって、学生部が責任をもっている。

就職、進学などについて、教職員一体となって、学生の指導、支援にあたっている。就職率も高率で安定している。主としてチューターが学生個々の問題の把握に努め、授業担当者、生活支援担当者などとの連携を図って、解決に努めている。社会人入試による入学生、科目等履修生、長期履修生など、学生にも多様化が進みつつあり、その受け入れ制度も整備が進んでいる。

#### 評価領域 研究

実習系の教員が多く、論文などになって公表される研究活動は限られているが、展覧会や演奏会といった制作活動、各種の社会事業、文化事業の企画、指導などが活発に行われており、当該短期大学が地域文化の進展、活性化に指導的な役割を果たしてい

ることがうかがえる。

研究活動、発表活動促進のため、必要な研究費が配分され、主として学科単位で運営されている。個人研究室の面積、必要機器類なども、標準以上に整備されている。

教員各自の個人研究、創作発表などの状況は、短期大学としては妥当な水準にある。

加えて各学科で毎年共同研究（5年間で17件）が採択され、授業改善の方法から新たな教育方法の開拓まで、さまざまに興味深いテーマに取り組んできている。その成果は授業改善などに充分にいかされているが、今後より広い公表方法の検討が望まれる。

#### 評価領域 社会的活動

開学以来、長く地域の文化センター的役割を果たしており、教員各自の社会的活動は活発である。教員の多くが地域の文化振興にかかわる各種の委員会の委員などを務めているほか、保育・福祉関係の講演会などへの出演も数多く、その地域貢献度は高い。

加えて、平成14年に生涯学習センターを開設、ここの主催する「サマースクール」が多くの地域住民を聴講生として集めるなど、組織的な取り組みも開始されている。

ボランティア活動に関する講義が開かれているほか、地域の文化的催し、各種の体育大会などにも、学生の積極的参加を促している。その一部は、講義あるいは実習の一環としても取組まれている。

#### 評価領域 管理運営

幼稚園、中学校、高等学校を含む学園全体の管理運営体制が、理事会を中心に確立している。短期大学については、専務理事が常駐し、理事長指名のメンバーによる運営委員会を置いて円滑な管理運営を図っている。

教務事項、学生指導に関しては、教授会の主体性が確立している。教授会のもとに、学生生活支援委員会をはじめとする7つの委員会組織が整備され、学内の運営にあたっている。理事会、教授会の全面的支持があるなど、学長のリーダーシップが十分に発揮される環境が整っている。

経理、庶務関係は職員組織として運営され、学生、教務関連は教職員協力組織として運営されている。各種規程も完備され、組織としては問題なく機能しているようだが、教員の負担がかなり大きいように思われる。

教職員の就業に関する規程は完備され、人事管理は適正に行われている。教職員の健康管理も十分に配慮されている。職員の就業時間は、柔軟な取り扱いを可能とする1年単位の変形労働時間制を採用している。

## 評価領域 財務

事業計画および予算は、事務課長、各学科、部門の予算責任者から聴取した要望をもとに原案が作成され、専務理事、学長、事務長による協議の後、理事長が評議員会の意見を聞いたうえで、3月下旬に理事会で決定している。決定した事業計画や予算は、各学科、部門の予算責任者に通知され、執行される。予算執行については、学科主任、事務部課長、学長、専務理事を経て、最終的に理事長のもとで決済されている。学校法人の経営・財政状態は、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録などによって適正に表示されている。監査機能についても有効に働いており、学校法人と監事、公認会計士との連携は円滑に行われている。

資金収支および消費収支は学校法人、短期大学ともに安定しており、消費収入超過額については平成16年度、平成17年度の2ヶ年で改善されている。その要因の一つは、短期大学における人件費抑制を柱とした消費支出の改善にあり、消費支出比率が平成15年度からの3ヶ年、漸減の状況にある。

実技系の短期大学として必要な施設、機器類は十分に整備されている。校舎には、開学当初のものなど、相当の年月を経たものも少なくないが、しっかりとした補修がなされ、学内環境を良好かつ清潔に保つための努力が感じ取れた。火災などの災害対策、コンピュータシステムのセキュリティ対策についても、適切に措置されている。

## 評価領域 改革・改善

「自己点検評価報告書」は、これまで2度、5年間隔で作成、公表されている。いずれも充実した内容で、全学をあげて自己点検に取り組んできた様子がよくわかる。さらに、点検が点検にとどまらず、カリキュラムや授業方法、学内組織のあり方、施設の改善などに、着実に結びついてきたというのは、理事会、教授会、事務局の連携・協力の成果であり、高く評価できる。

教員を中心に事務職員も加わった「自己点検評価実施委員会」を組織し、全学的体制で自己点検・評価活動を実施している。さらに、当該委員会の提言に基づき、施設面、教学面など、ハード、ソフト両面において間断なく改善を続けてきた。

外部評価については、これまでのところ実績はないが、今後の課題として検討する予定である。教員数、職員数とも小規模な学園で、自己点検以外に相互点検、独自の外部点検に取り組むのは大変であろうが、その必要性は充分認識されている。